

令和7年度 全国学力・学習状況調査

調 査 結 果

1	調査の概要	1 ページ
2	教科に関する調査結果	2 ～ 5 ページ
3	質問紙調査に関する調査結果	6 ～ 17 ページ
4	分析内容	18 ～ 21 ページ

令和7年8月

羽幌町教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ・【小学校調査】 小学校第6学年（羽幌小学校、天売小学校、焼尻小学校）
- ・【中学校調査】 中学校第3学年（羽幌中学校、天売中学校）
※焼尻中学校は、調査対象学年に在籍する生徒が不在のため対象外。

(3) 調査実施日

令和7年4月17日（木）

(4) 調査内容

①教科に関する調査

- ・小学校3教科（国語、算数、理科）
- ・中学校3教科（国語、数学、理科） ※理科は3年に1度実施。

国語：学習指導要領に示されている「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱いに関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に関わる選択式・短答式・記述式の3種類の問題。

算数：学習指導要領に示されている「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」に関わる選択式・短答式・記述式の3種類の問題。

数学：学習指導要領に示されている「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」に関わる選択式・短答式・記述式の3種類の問題。

理科：学習指導要領に示されている「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」に関わる選択式・短答式・記述式の3種類の問題。

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・児童生徒に対する調査

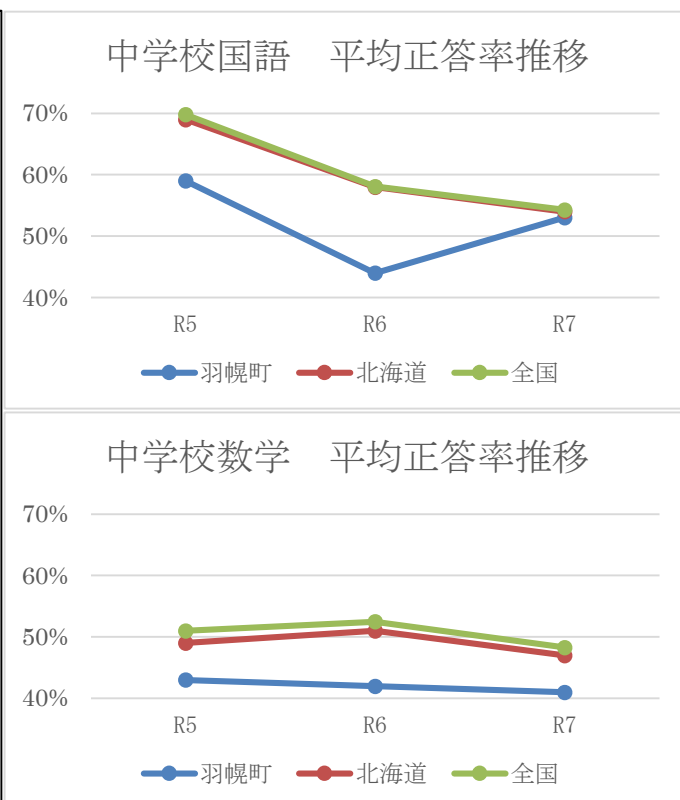
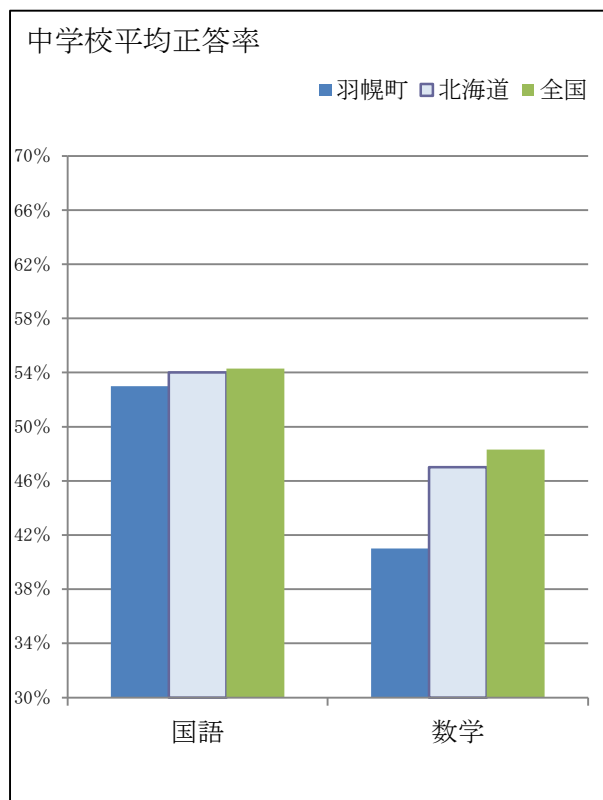
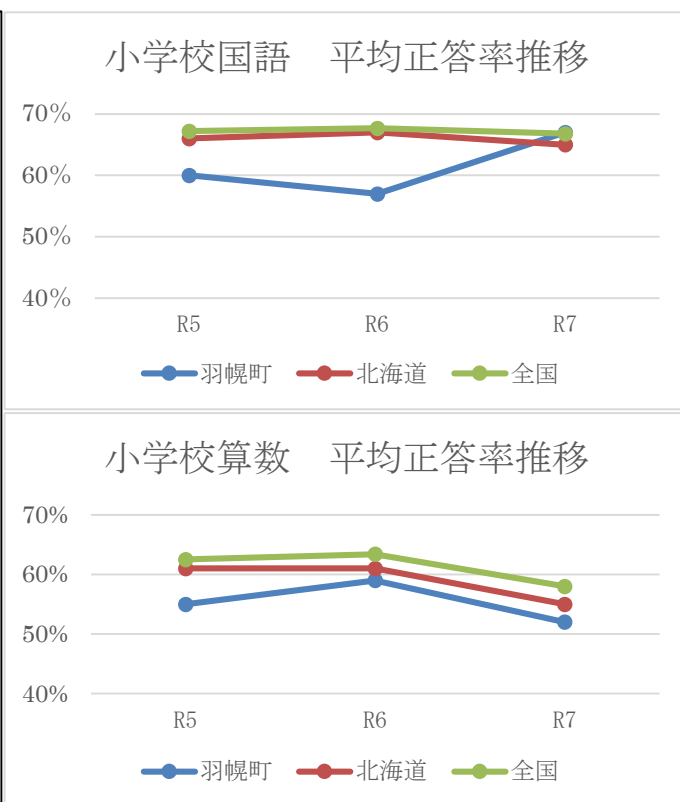
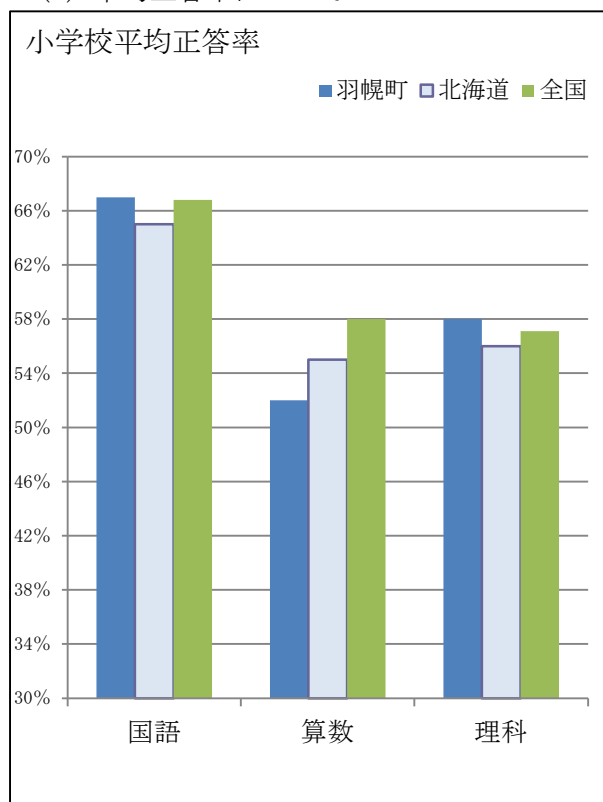
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項を主に、児童生徒に質問調査を実施。

- ・学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査（授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況）に関する事項を主に、学校に質問調査を実施。

2. 教科に関する結果

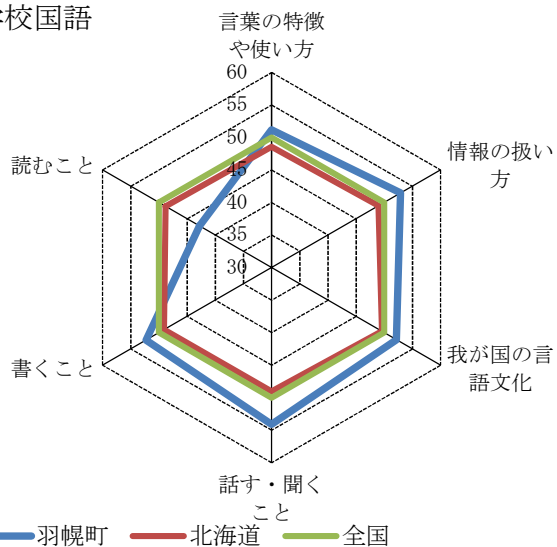
(1) 平均正答率について



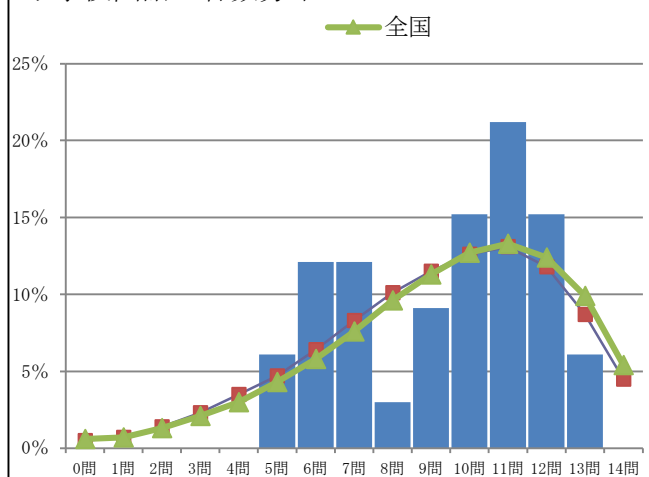
※中学校理科については5項に記載

(2) 小学校に関する調査の結果

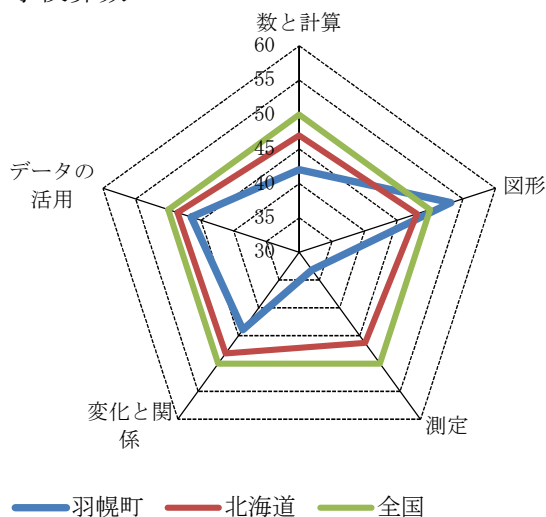
小学校国語



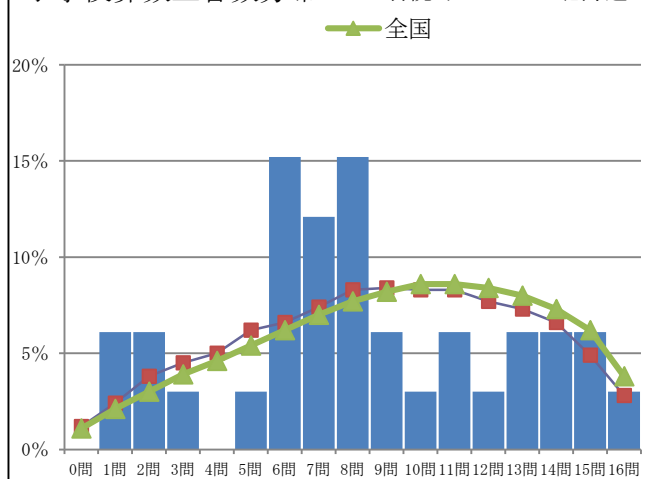
小学校国語正答数分布



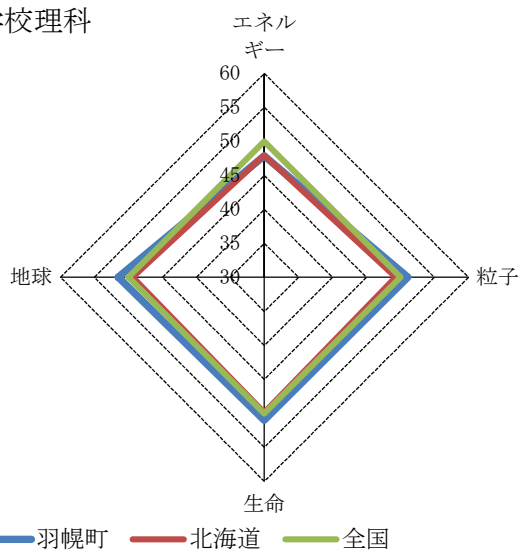
小学校算数



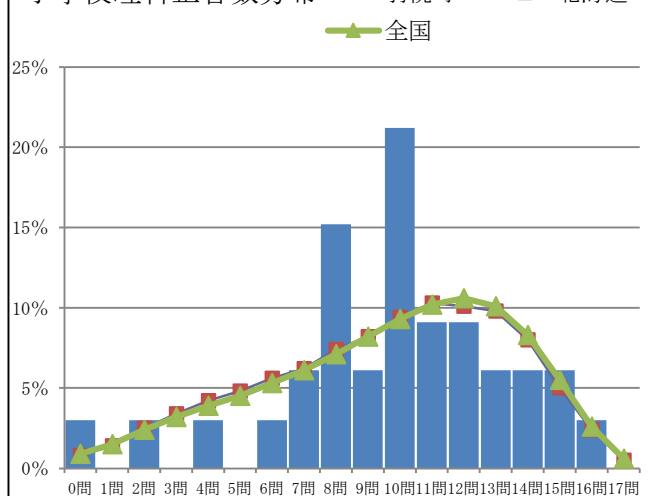
小学校算数正答数分布



小学校理科

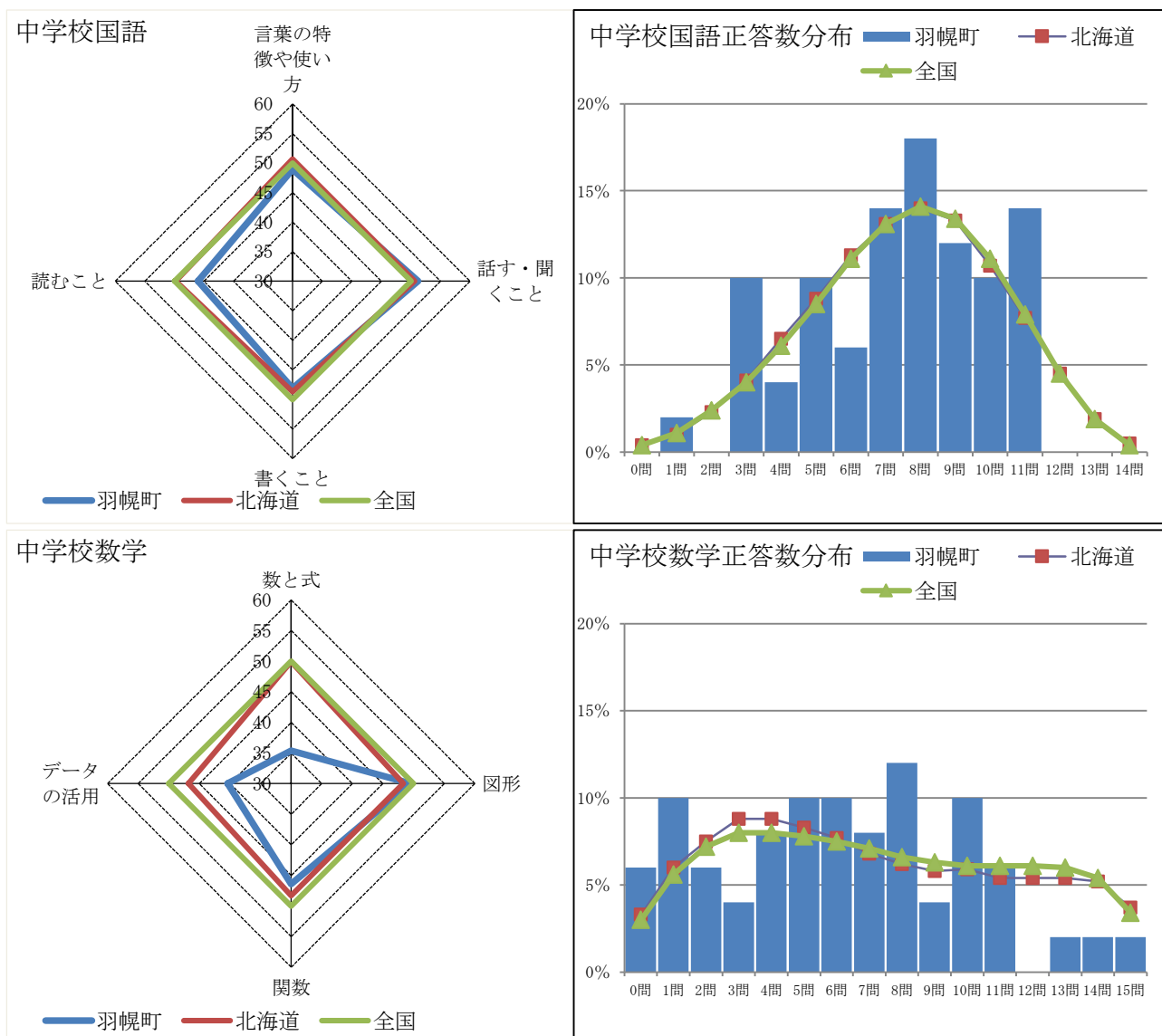


小学校理科正答数分布



※左記のレーダーチャートは学習指導要領の領域毎に全国平均正答率を50に換算して比較したもの。

(3) 中学校に関する調査の結果（国語・数学）



※左記のレーダーチャートは学習指導要領の領域毎に全国平均正答率を 50 に換算して比較したもの。

※中学校理科については 5 項に記載

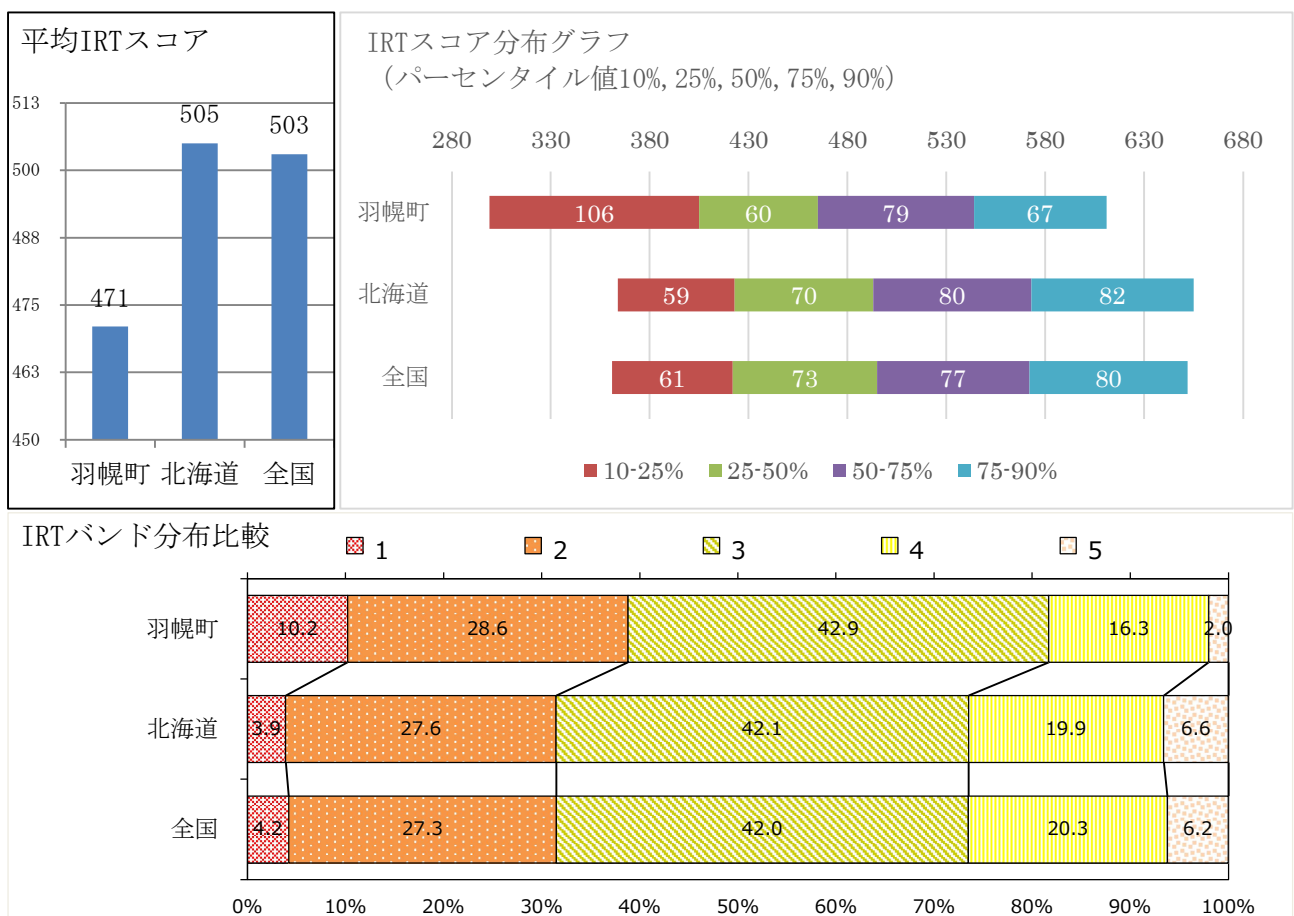
(4) 中学校に関する調査の結果（理科）

- 中学校理科については、全日程に共通する問題と実施日毎に異なる問題から出題される「公開問題」と幅広い内容・難易度等から生徒ごとに異なる問題が出題される「非公開問題」の2種類から構成されている。

このことから、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較をする必要があることからIRT(Item Response Theory：項目反応理論)が導入されている。

【用語説明】

用語	解説					
IRT	児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。					
IRT スコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。					
IRT バンド	IRT スコアを 1 ～ 5 の 5 段階に区切ったもの。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。					
	※IRT バンドを IRT スコアに換算すると、 およそ以下のような対応関係になる。					
	IRT バンド	1	2	3	4	5
	IRT スコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

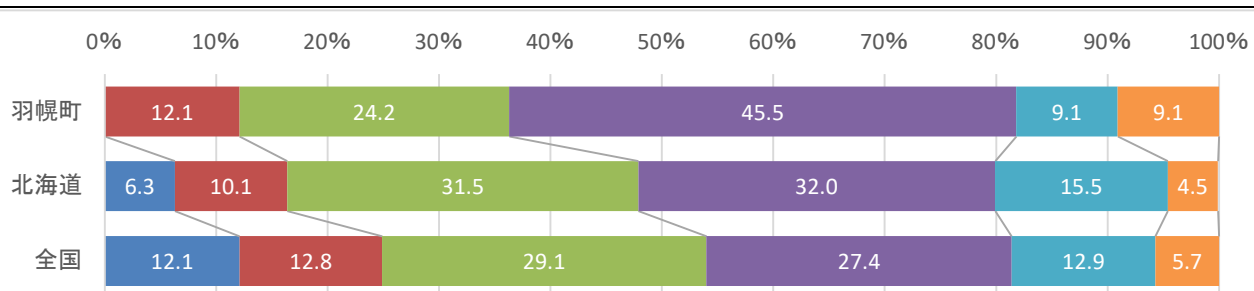


3. 質問調査の結果

(1) 児童に関する質問調査

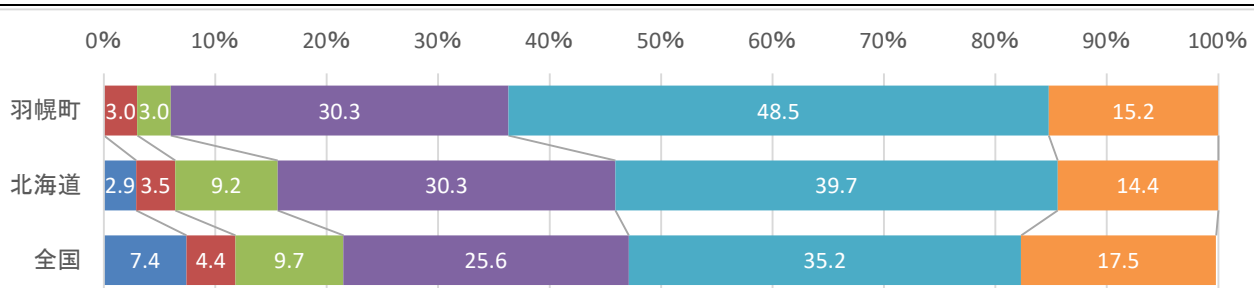
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

- 1. 3時間以上 ■ 2. 2時間以上、3時間より少ない ■ 3. 1時間以上、2時間より少ない
■ 4. 30分以上、1時間より少ない ■ 5. 30分より少ない ■ 6. 全くしない



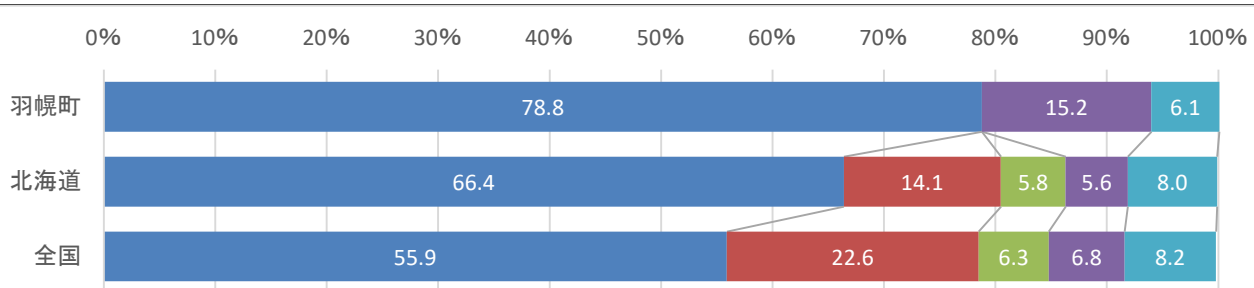
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

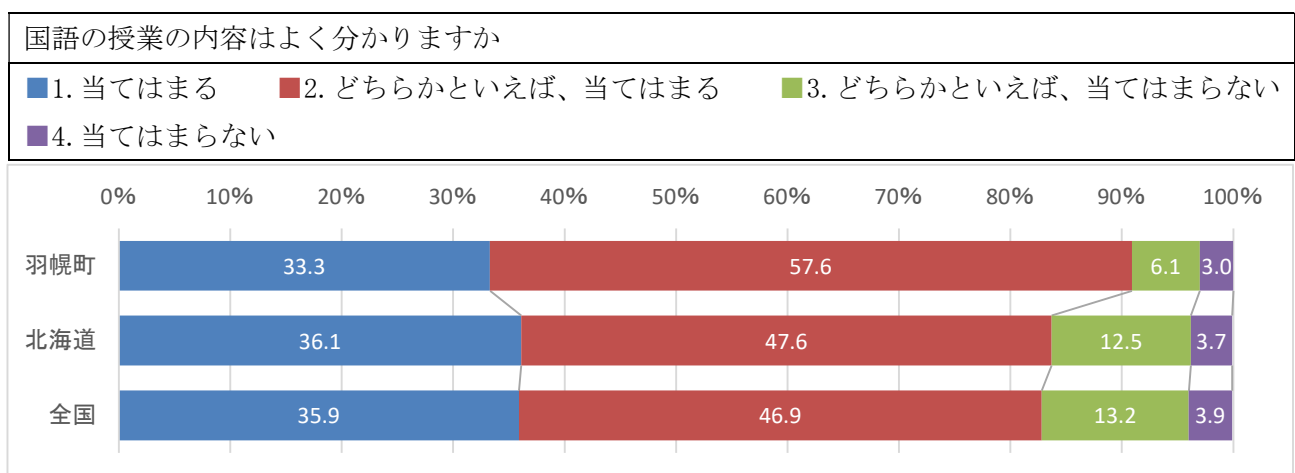
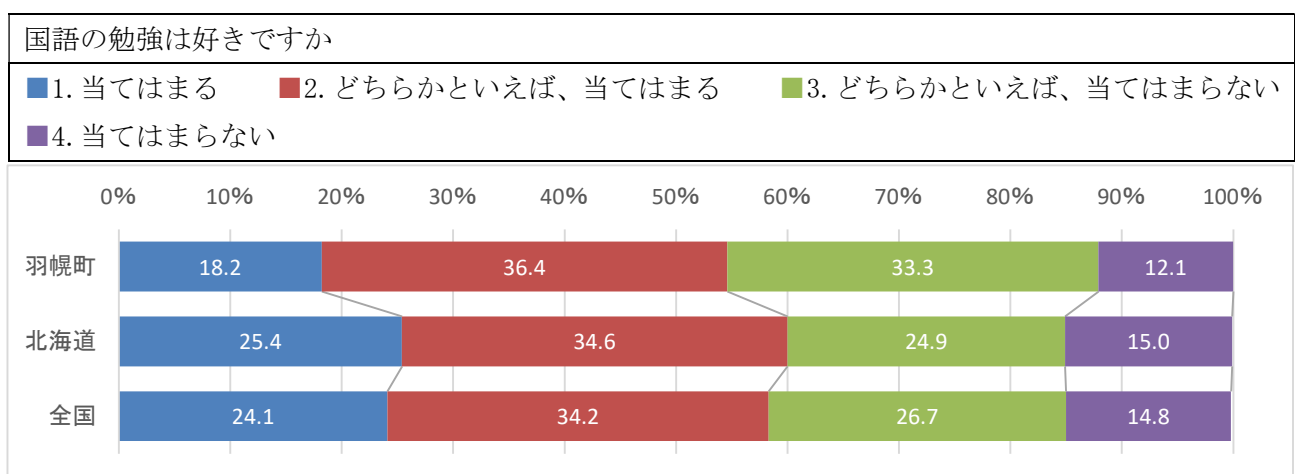
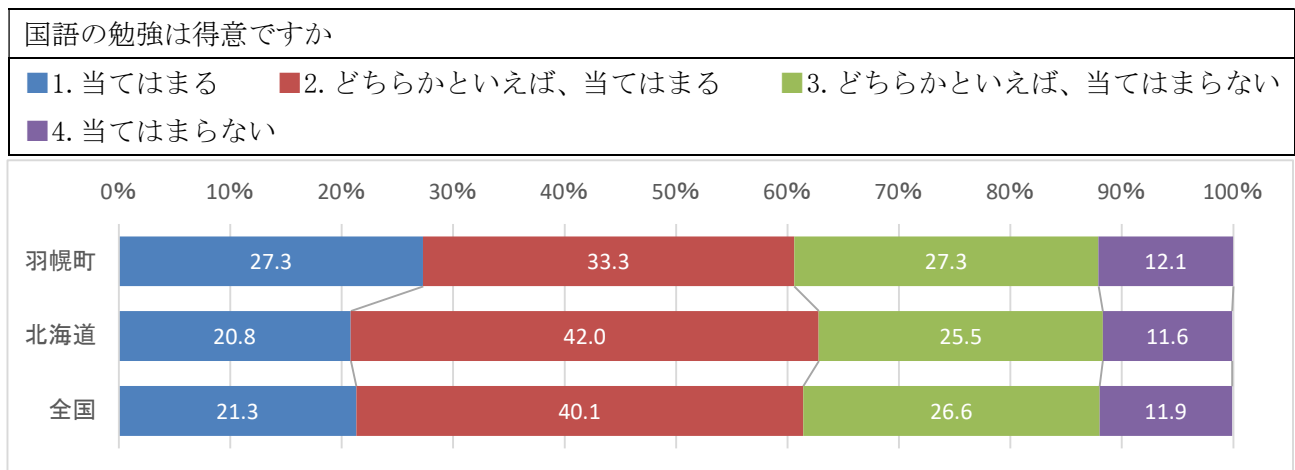
- 1. 4時間以上 ■ 2. 3時間以上、4時間より少ない ■ 3. 2時間以上、3時間より少ない
■ 4. 1時間以上、2時間より少ない ■ 5. 1時間より少ない ■ 6. 全くしない

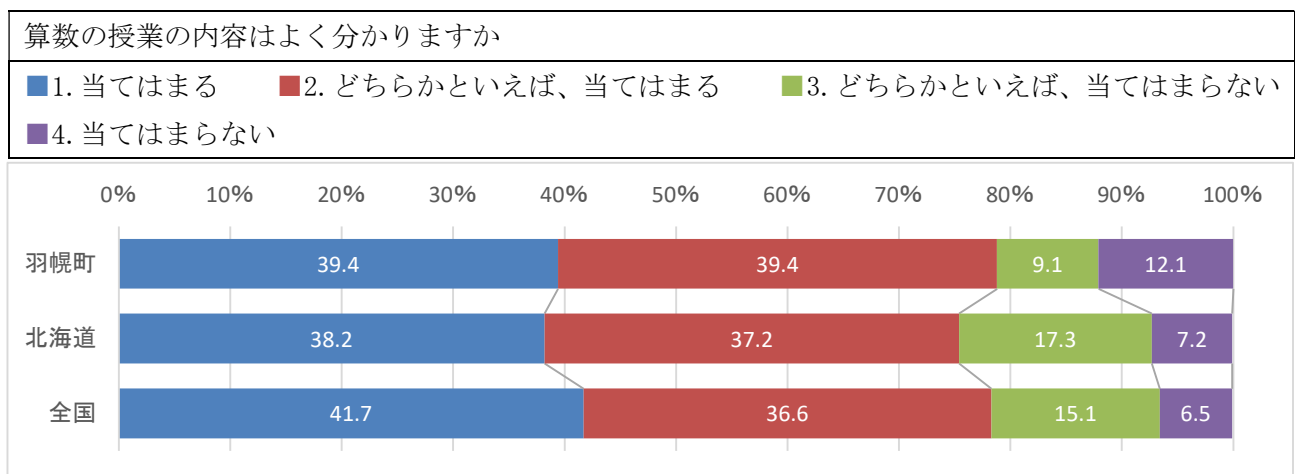
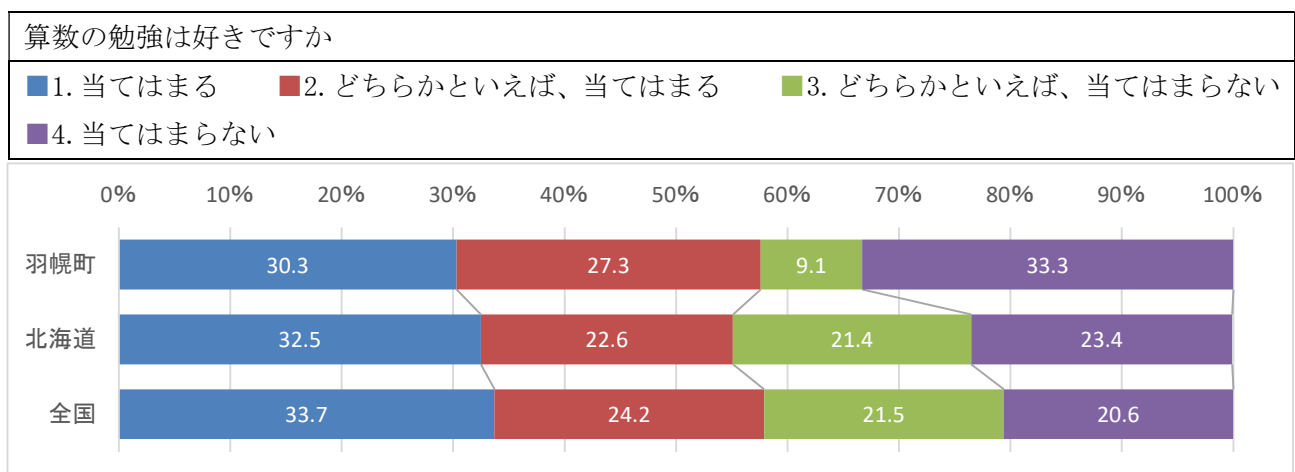
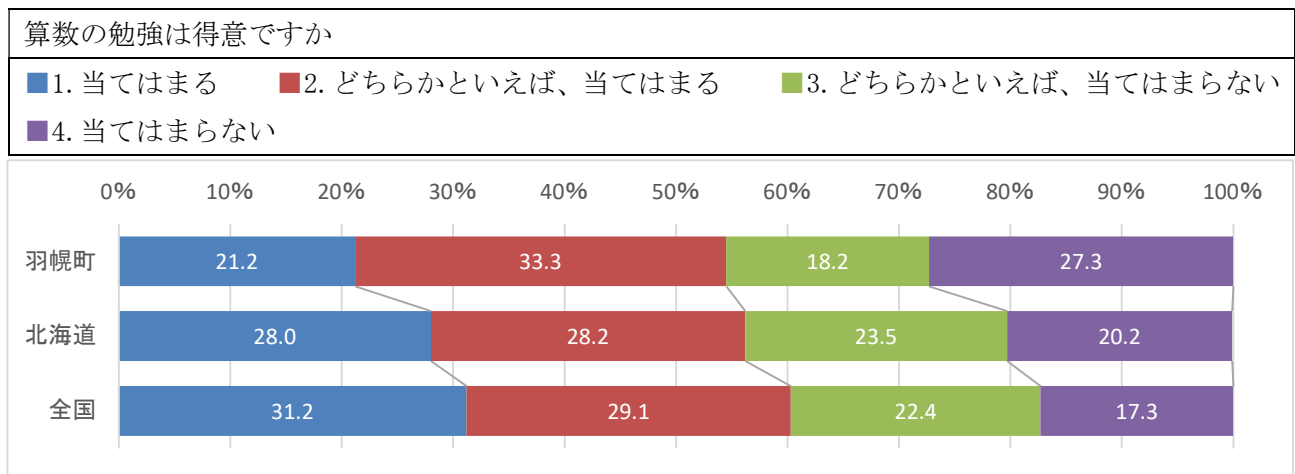


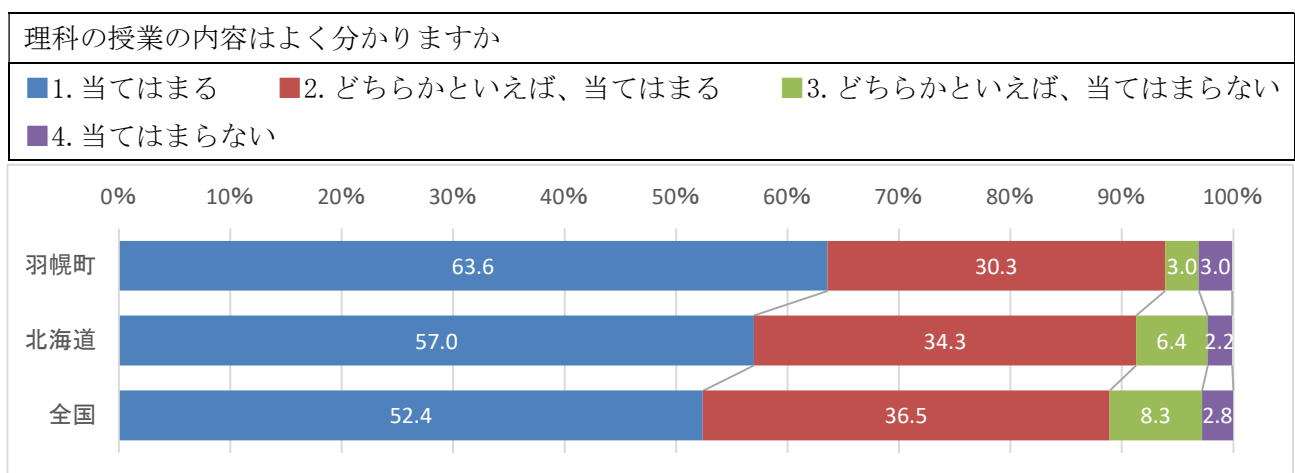
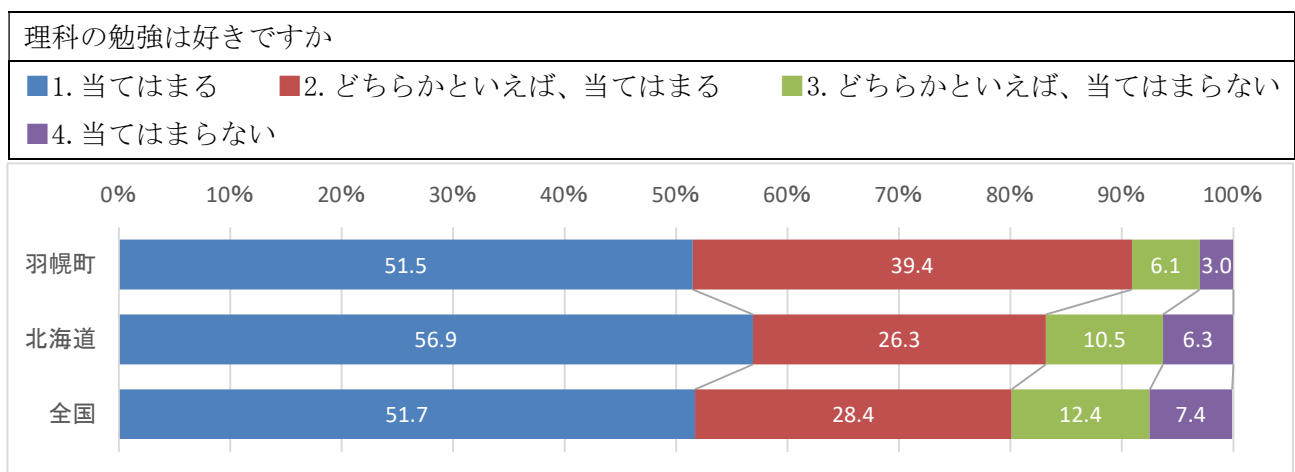
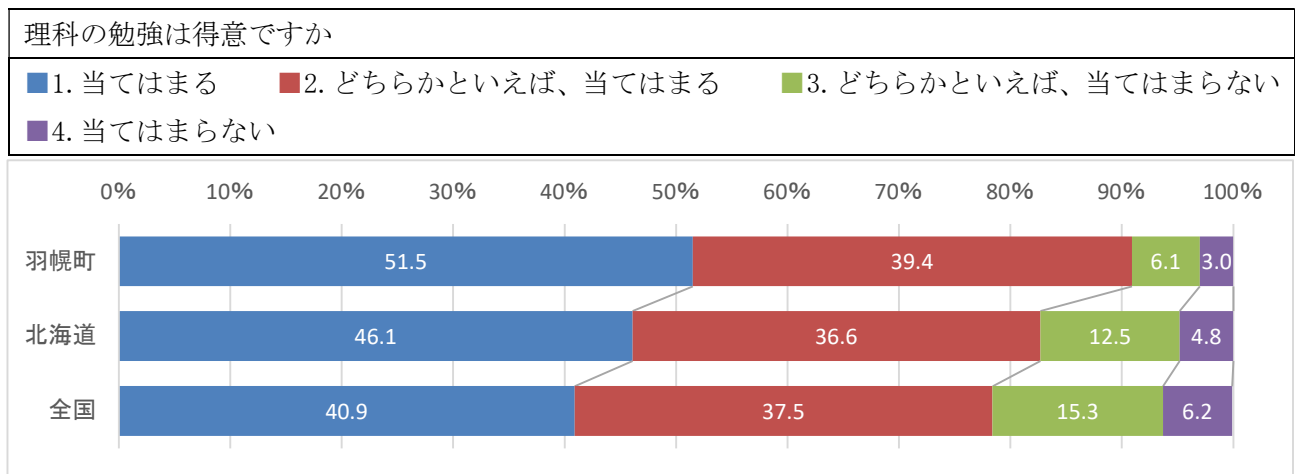
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）

- 1. 教わっていない ■ 2. 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている
■ 3. 学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている
■ 4. 上記2、3の両方の内容を教わっている ■ 5. 上記2、3の内容のどちらともいえない





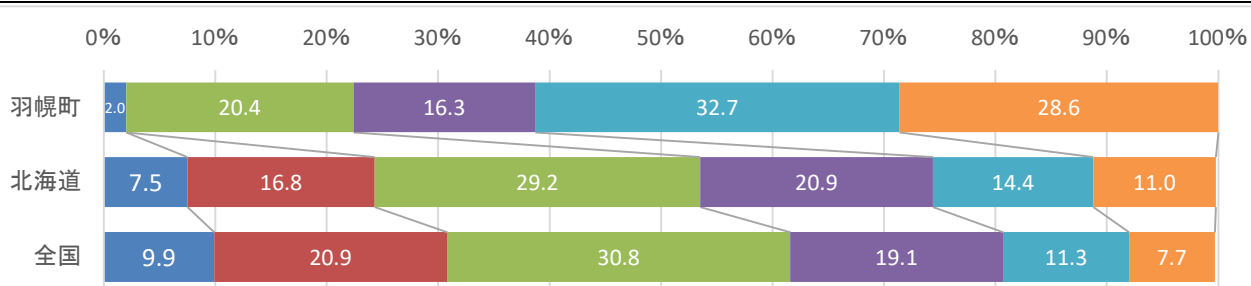




(2) 生徒に関する質問調査

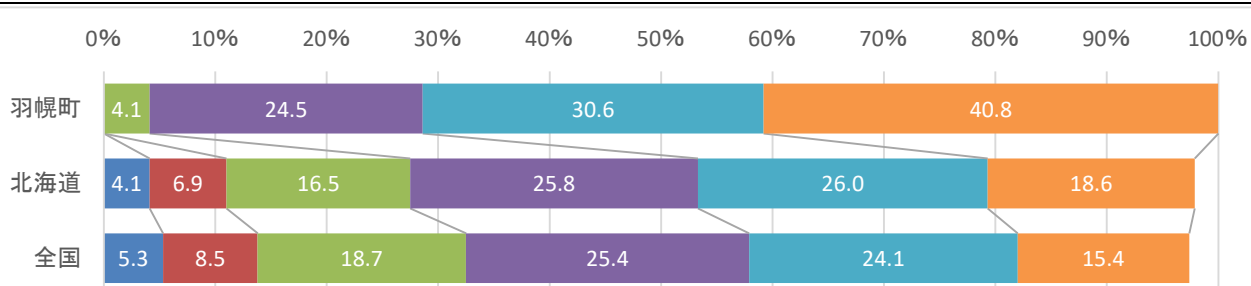
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

- 1. 3 時間以上 ■ 2. 2 時間以上、3 時間より少ない ■ 3. 1 時間以上、2 時間より少ない
■ 4. 30 分以上、1 時間より少ない ■ 5. 30 分より少ない ■ 6. 全くしない



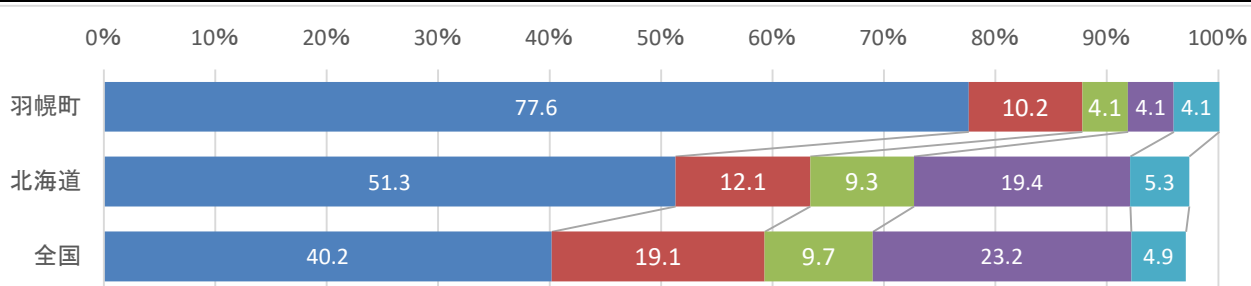
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

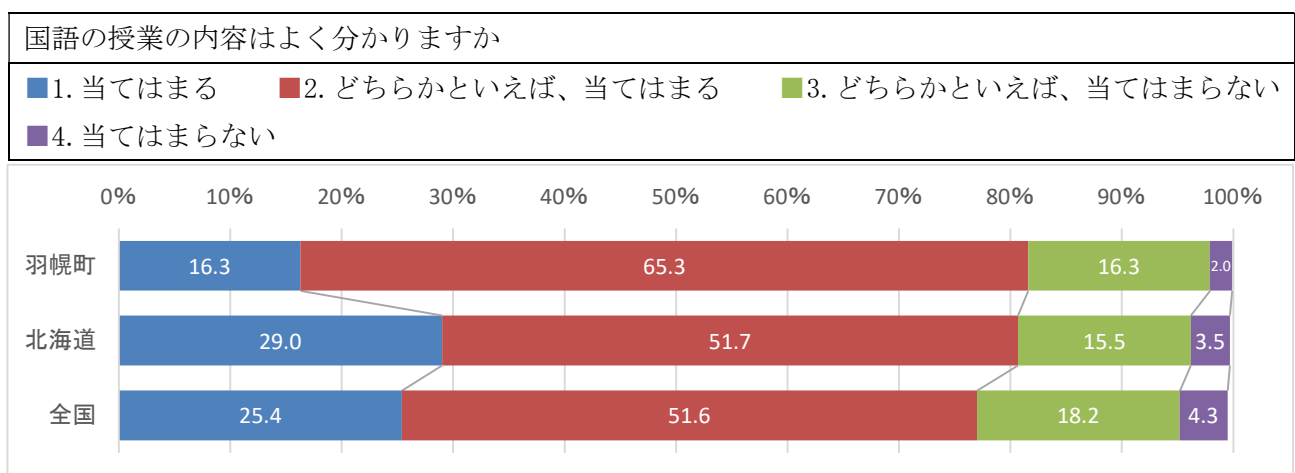
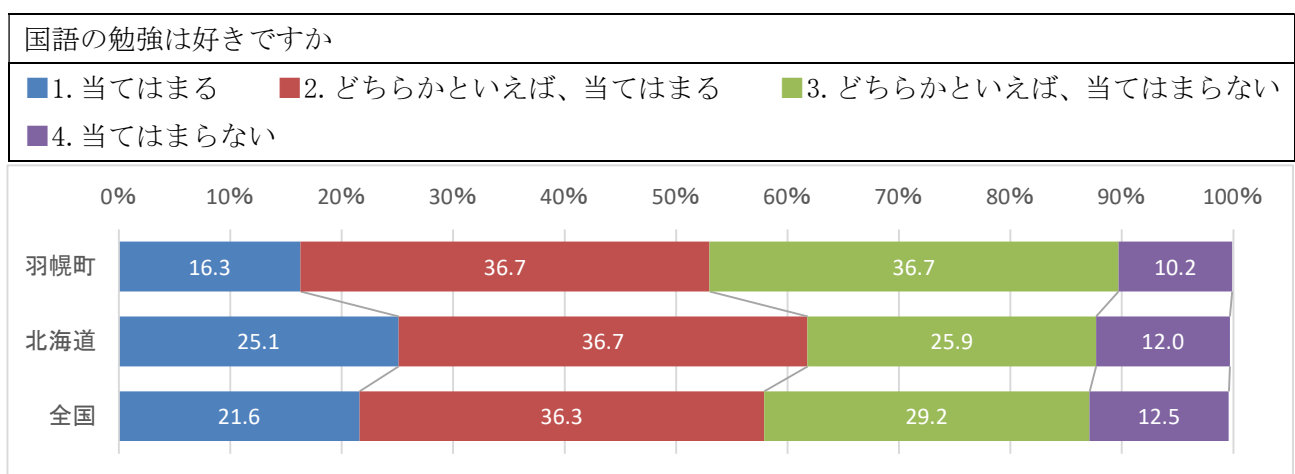
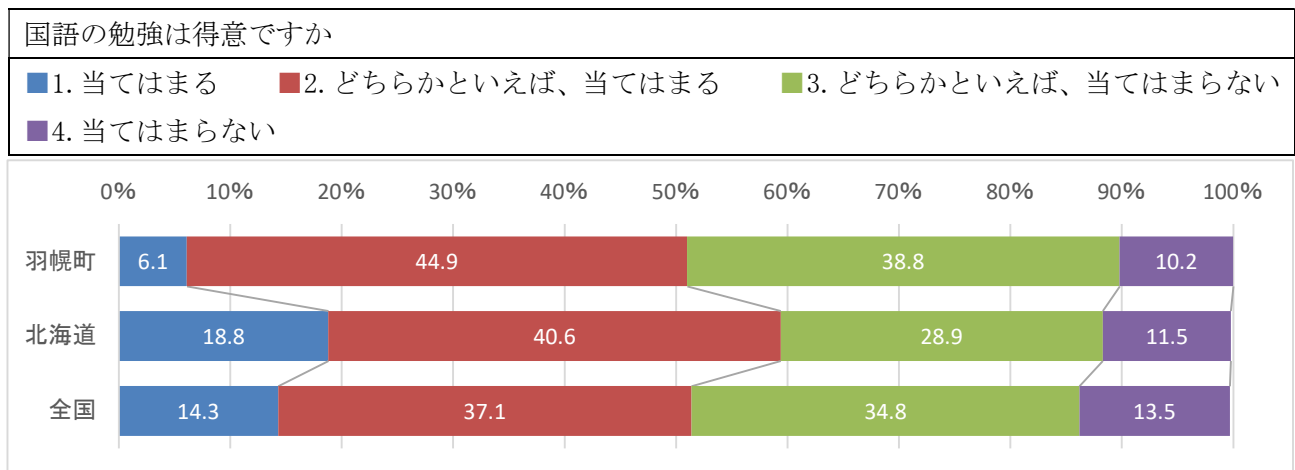
- 1. 4 時間以上 ■ 2. 3 時間以上、4 時間より少ない ■ 3. 2 時間以上、3 時間より少ない
■ 4. 1 時間以上、2 時間より少ない ■ 5. 1 時間より少ない ■ 6. 全くしない

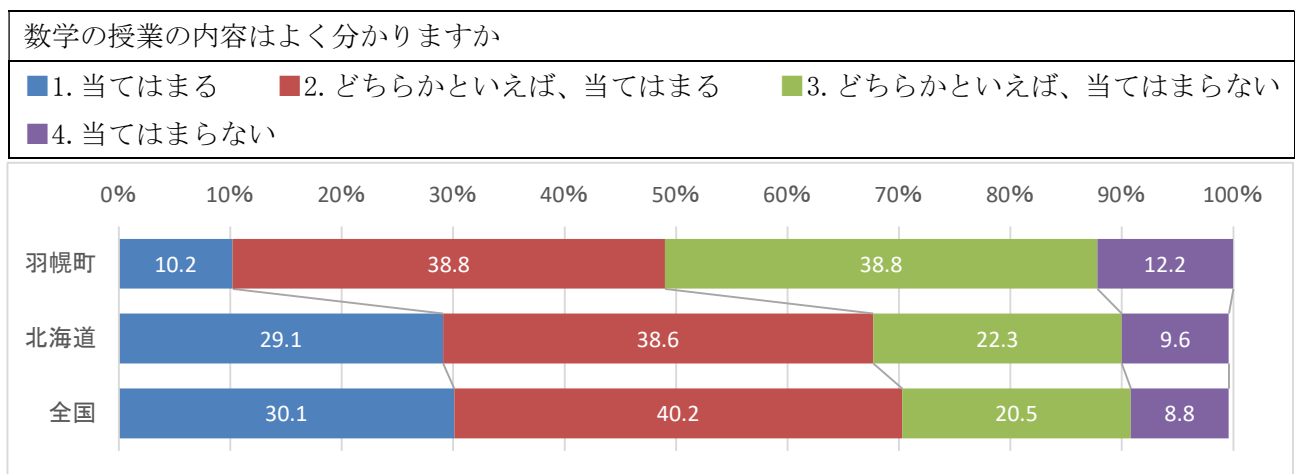
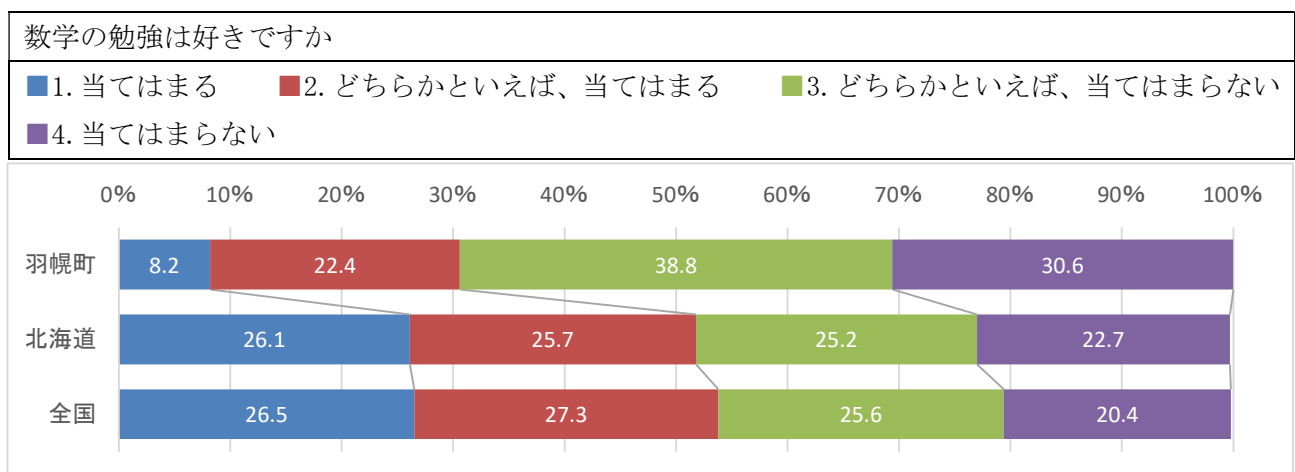
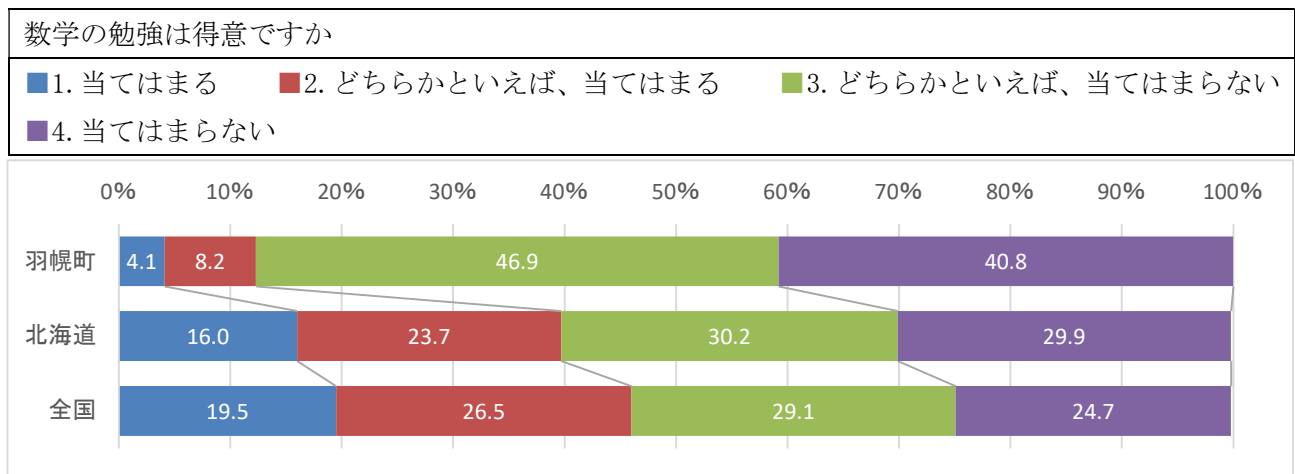


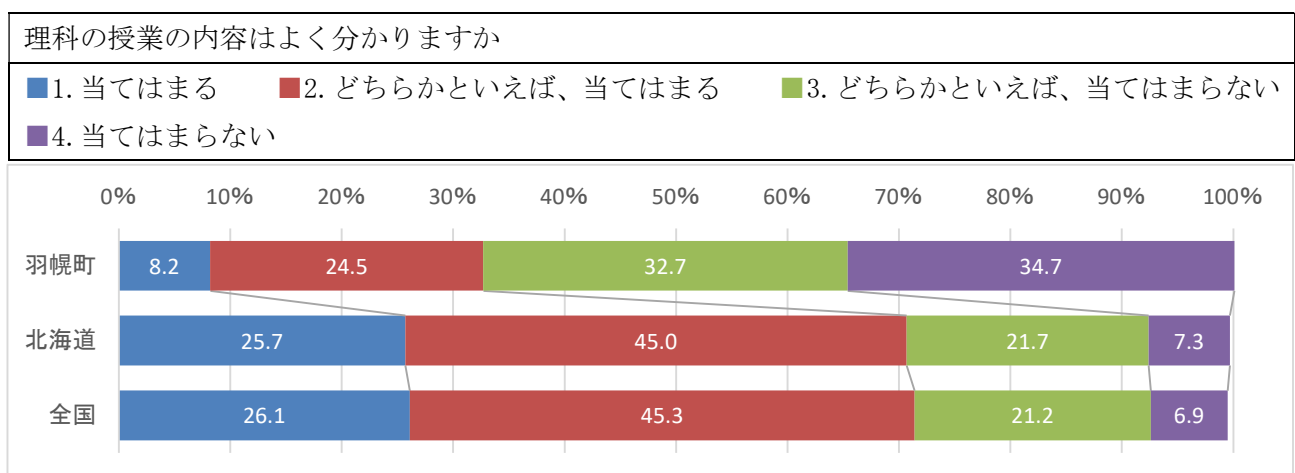
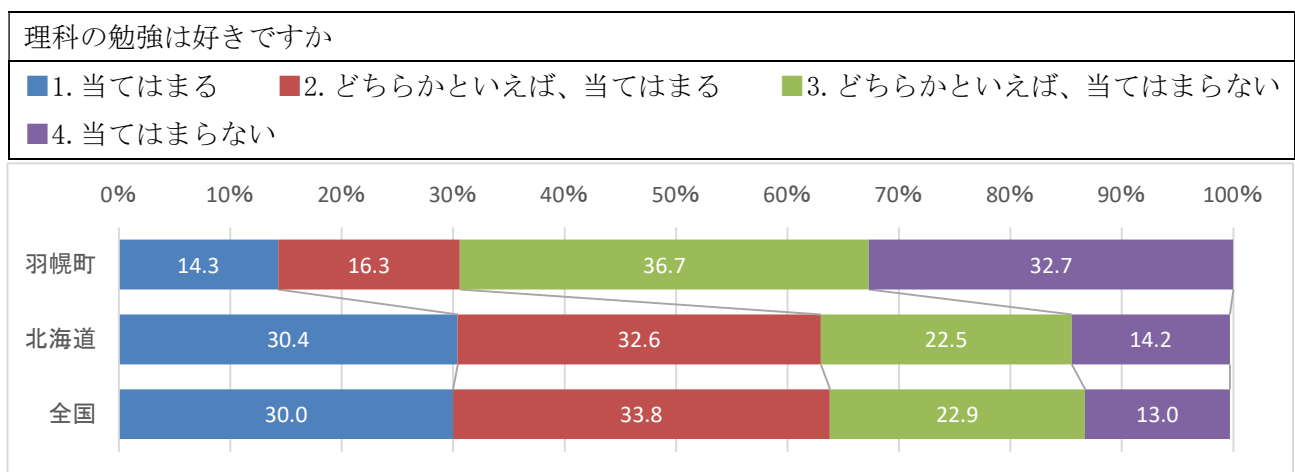
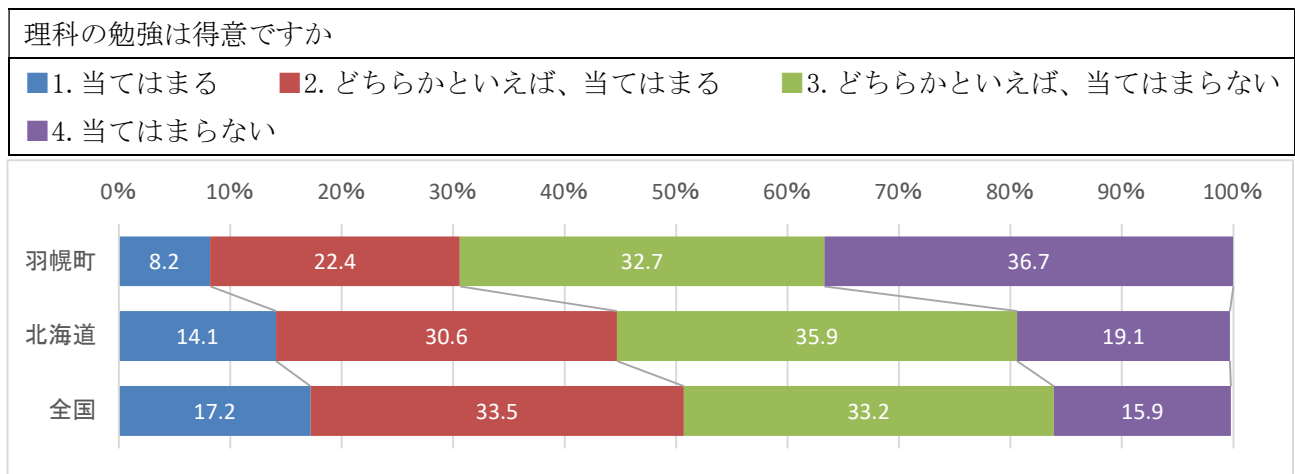
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）

- 1. 教わっていない ■ 2. 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている
■ 3. 学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている
■ 4. 上記 2、3 の両方の内容を教わっている ■ 5. 上記 2、3 の内容のどちらともいえない





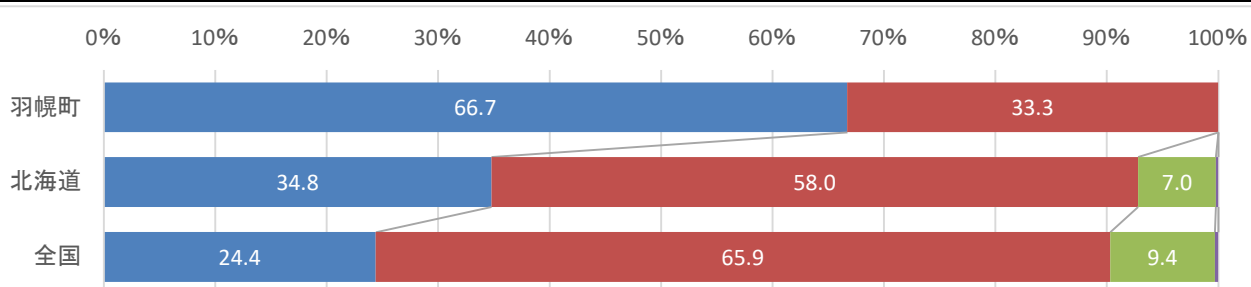




(3) 小学校に関する質問調査

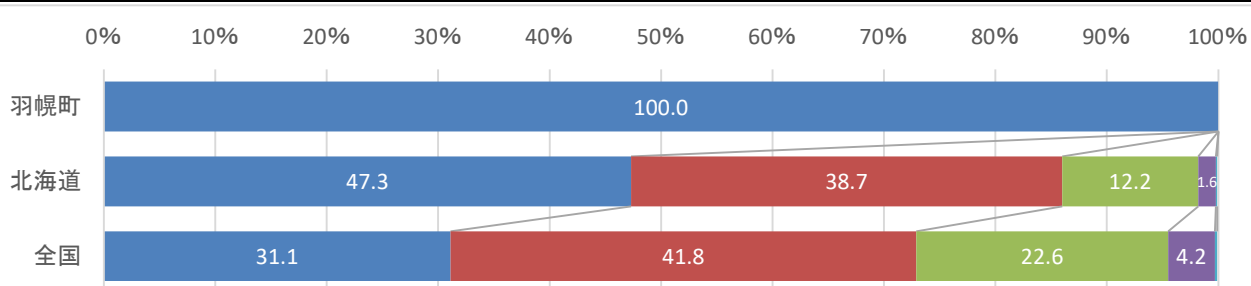
調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

- 1. そう思う ■ 2. どちらかといえば、そう思う ■ 3. どちらかといえば、そう思わない
■ 4. そう思わない



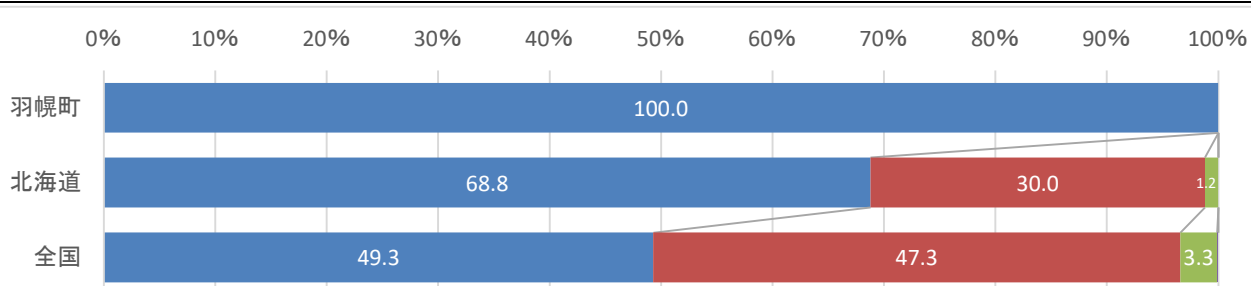
調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか

- 1. ほぼ毎日 ■ 2. 週 3 回以上 ■ 3. 週 1 回以上 ■ 4. 月 1 回以上 ■ 5. 月 1 回未満



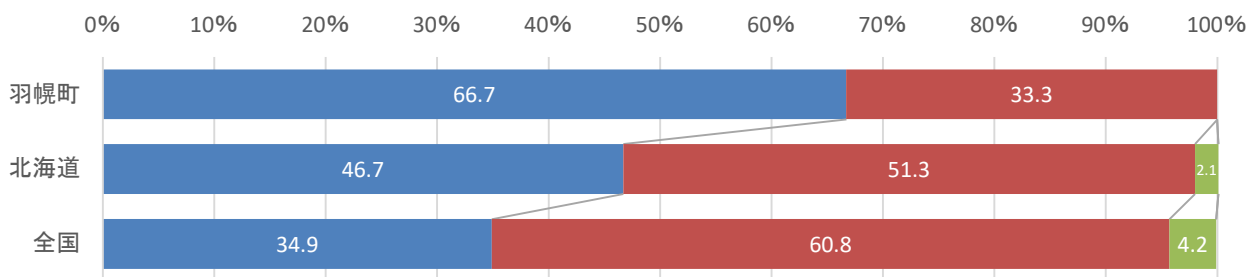
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

- 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



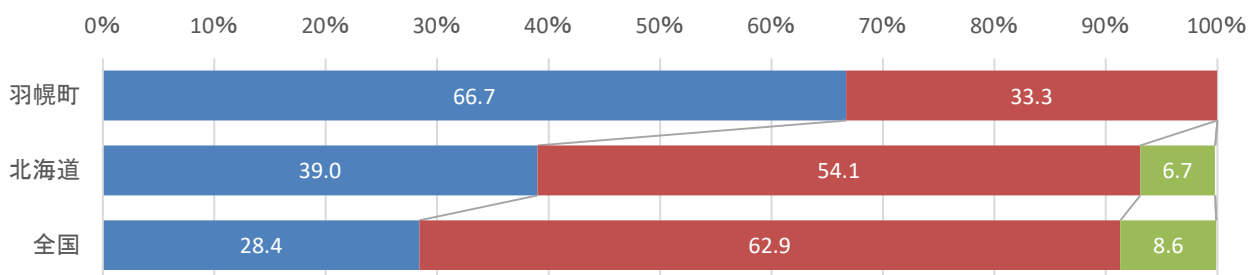
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか

■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



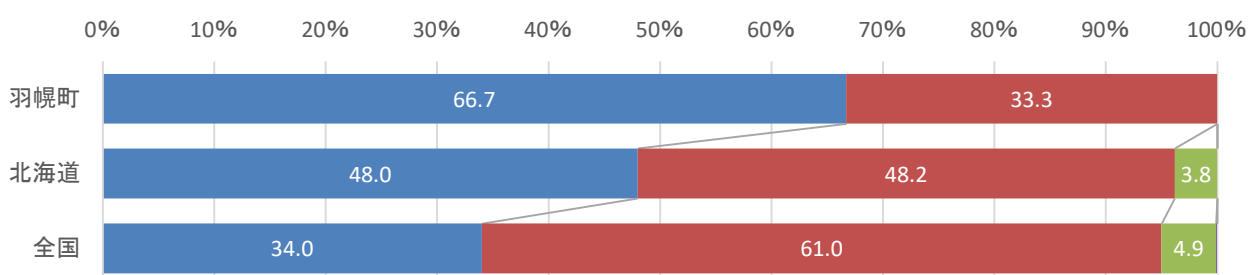
調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか

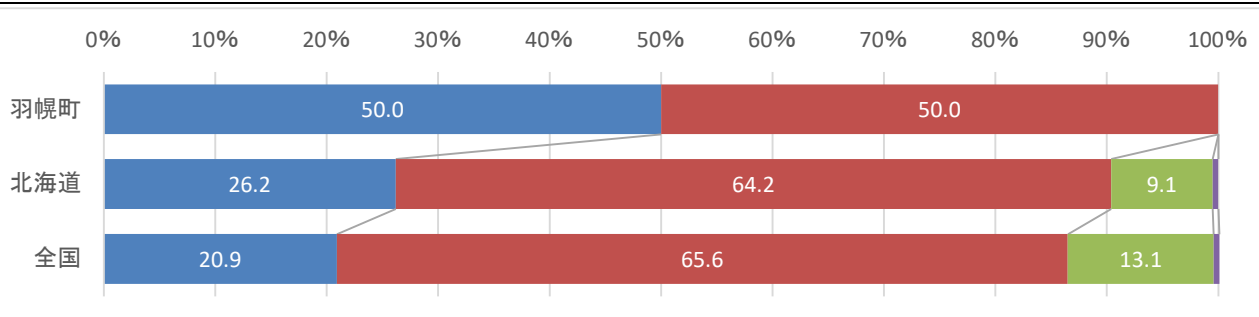
■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



(4) 中学校に関する質問調査

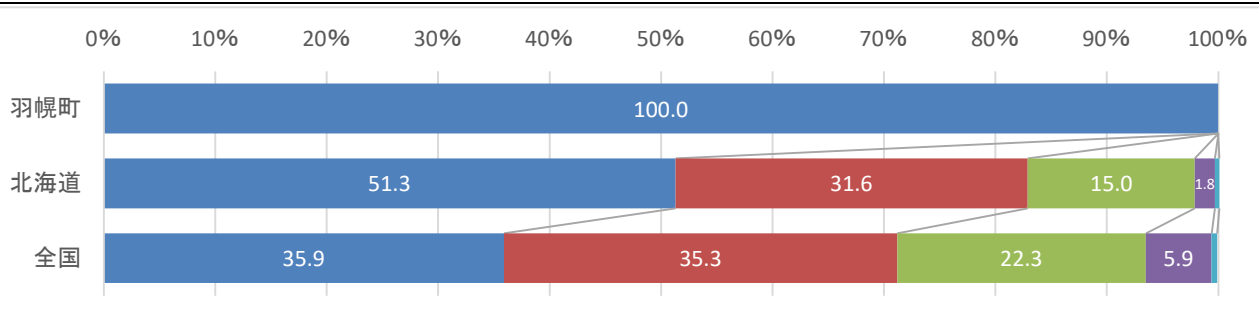
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

- 1. そう思う ■ 2. どちらかといえば、そう思う ■ 3. どちらかといえば、そう思わない
■ 4. そう思わない



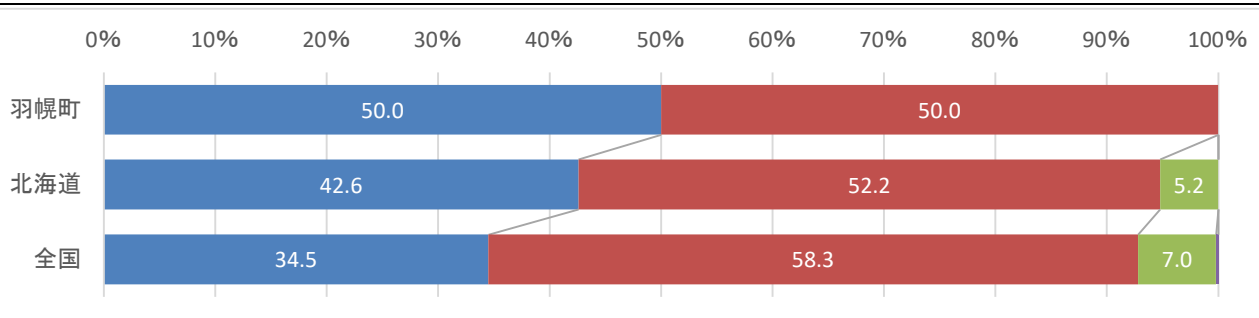
調査対象学年の生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか

- 1. ほぼ毎日 ■ 2. 週 3 回以上 ■ 3. 週 1 回以上 ■ 4. 月 1 回以上 ■ 5. 月 1 回未満



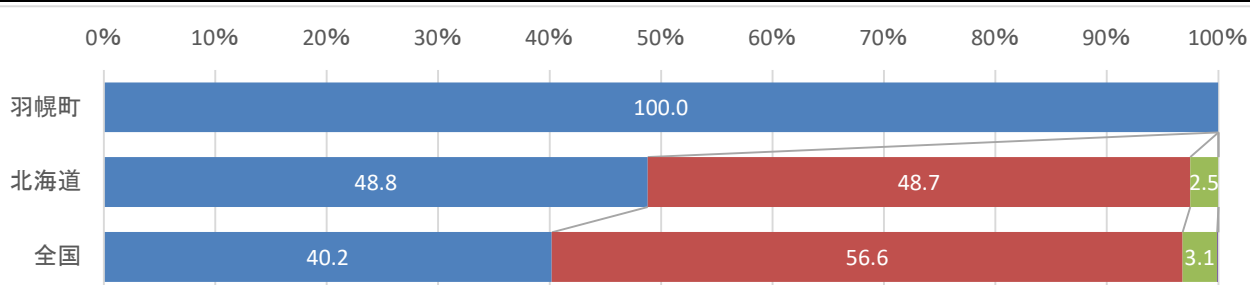
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

- 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



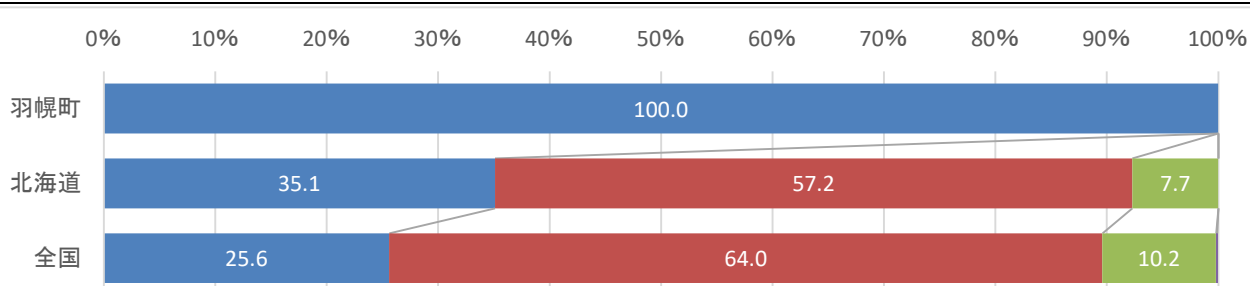
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか

■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



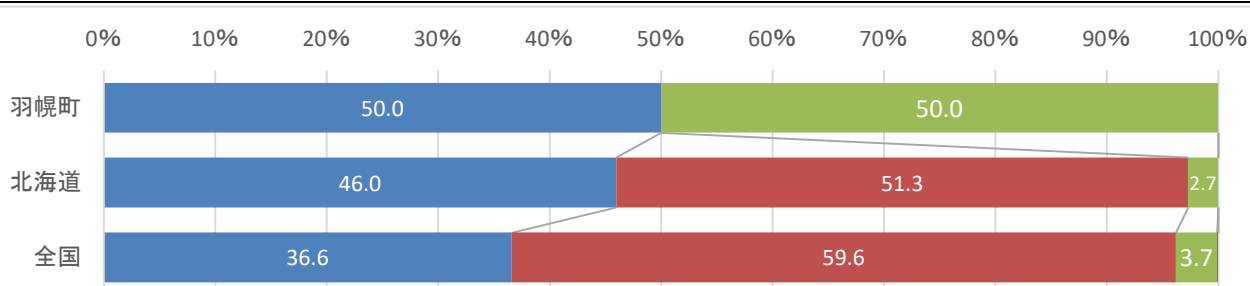
調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか

■ 1. よく行った ■ 2. どちらかといえば、行った ■ 3. あまり行わなかった
■ 4. 全く行わなかった



4. 分析内容

(1) 小学校について

○平均正答率について

国語と理科で平均正答率が全道・全国を上回った結果となった。国語については平均正答率が令和5・6年度で全道・全国を下回っていたが、令和7年度に改善されている。算数については全道・全国を下回った結果となり、令和6年度と比べ平均正答率の差が若干広がっている。

学習指導要領の領域毎に比較すると、国語については「読むこと」以外の領域で全道・全国を上回ったことに加え、正答数についても11問正答した割合が最も多く、全児童が5問以上正答している。算数については「図形」以外の領域で全道・全国を下回っており、特に「測定」の領域で差が出ている。正答数については6～8問正答した児童の割合が多く、9問以上正答した児童の割合が少ない結果となった。理科については、全領域が全道・全国とほぼ同水準であり、正答数については8問、10問正答した割合が多く、他は全道・全国とほぼ同水準で分布している結果となった。

○児童に対する質問調査について

①家庭学習について

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に対して「3時間以上勉強する」と回答した児童は皆無であったが、「勉強する」と回答した児童の割合が90%を超えており、全道・全国とほぼ同水準となった。加えて、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に対して「4時間以上勉強する」と回答した児童は皆無であったが、「勉強する」と回答した児童の割合は全国を上回っている。

このことから、勉強時間はやや短いものの家庭での学習習慣が備わっている児童が多いことが言え、正答率の向上につながったと考える。また、「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」との質問に対して「教わっていない」と回答した児童は78.8%であったが、「学校の勉強より進んだ内容、難しい内容、よく分からなかった内容を教わっている」と回答した児童の割合が全国と比べ約10%多い割合であることも正答率向上の要因の一つに挙げられる。

②教科について

国語については「国語の勉強が得意ですか」、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答した割合は若干低いものの、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した割合が90%を超え、全道・全国を上回ったことから、授業の理解度が正答率の高さにつながったと考える。

算数については「算数の勉強が得意ですか」、「算数の勉強は好きですか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的な回答の割合については全道・全国と比べ、特筆すべき差は見られなかったが、最も否定的な回答である「算数が不得意・嫌い・授業の内容が分からない」と回答した割合が全道・全国と比べ多い（質問によっては10%以上の差）結果となったことから、算数に苦手意識がある児童が多いと言え、正答数が低い児童の割合が多い要因となったと考える。

理科については「理科の勉強が得意ですか」、「理科の勉強は好きですか」、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が全道・全国と比べ全て高い結果となったことから、理科を得意とする児童が多く、正答率にも反映されたことが言える。

○学校に対する質問調査について

「調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか」との質問に対して全ての学校で肯定的な回答をしている上、「調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」との質問では全ての学校で「ほぼ毎日」と回答したことから、小学校における ICT 化の導入が町内全域的に進んでいることが分かる。

さらに、「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」との問いに対して、全ての学校で「よく行った」と回答したことから、家庭での学習習慣が備わっている児童が多い要因であると言え、教師陣の指導体制による効果が大きいと考える。

また、国語・算数・理科の授業に係る質問に対しては全ての学校で肯定的な回答をしていることから、国語・理科については、さらなる学力の向上、算数については苦手意識がある児童の減少に向け、今後も継続して取組を行う必要がある。

(2) 中学校について

○国語・数学の平均正答率について

国語と数学で平均正答率が全道・全国を下回った結果となったが、平均正答率の差については令和 6 年度と比較すると両方とも改善されており、国語については全道・全国とほぼ差がない結果となった。

学習指導要領の領域毎に比較すると、国語については「読むこと」の領域で差が出ているものの、それ以外の領域で全道・全国と目立った差はなく、正答数についても全道・全国と同様に 8 問正答した割合が最も多い結果となった。しかし、正答数が 3 問以下の生徒が比較的多かったことが平均正答率の上昇に歯止めを掛けたと言える。数学については全ての領域で全道・全国を下回っており、特に「数と式」、「データの活用」で差が広がった。正答数については 12 問以上正解した生徒が少なく、正答数が 11 問以下で分布した結果となった。

○理科の IRT 分析について

平均 IRT スコアを比較すると全道・全国とで約 30 の差があり、IRT スコア分布グラフを比較しても下方に分布した結果となった。また、IRT バンド分布を比較しても「2」と「3」の分布にそれ程差はないものの、「1」の分布が相対的に高く、「4」と「5」の分布が低い結果となったことから、中間層以外で差が生じていると言える。

○生徒に対する質問調査について

①家庭学習等について

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に対して、「3時間以上勉強する」と回答した生徒は一定数存在するが、「勉強する」と回答した生徒の割合が全道・全国に比べ約20%低い71.4%となり、約3割の生徒が平日に家庭での学習を実施していないこととなる。加えて、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に対して「3時間以上勉強する」と回答した生徒は皆無であり、「勉強する」と回答した生徒の割合についても全道・全国に比べ約20%低い59.2%となった。

このことから、家庭での学習習慣が備わっていない生徒が多いことが言え、正答率の減少につながったと考える。また、「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」との質問に対して「教わっていない」と回答した生徒は全国の倍近くとなる77.6%であり、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を教わっている」や「学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている」等と回答した割合も全国の半分以下であることも正答率減少の要因の一つに挙げられる。

②教科について

国語については「国語の勉強が得意ですか」、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答した割合は若干低いものの、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した割合が80%を超え、全道・全国を上回った。このことから、授業では内容を理解しているが、内容の定着が図られていない状況であると考えられる。

数学については「数学の勉強が得意ですか」、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は全道・全国と比べ全て低く、中でも「数学の勉強が得意ですか」の質問に肯定的に回答した割合が12.3%であり、全道・全国と比べ突出して低い結果となった。このことから、数学に苦手意識があり不得意としている生徒が多いと言え、正答率の低下の要因の一つになったと考えられる。

理科についても数学と同様に「理科の勉強が得意ですか」、「理科の勉強は好きですか」、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は全道・全国と比べ全て低く、中でも「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して最も否定的な回答である「当てはまらない」と回答した割合が全国の約5倍となる34.7%であることから、生徒が理解しやすい授業について今一度検討する必要性が高いと考える。

○学校に対する質問調査について

「調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか」との質問に対して全ての学校で肯定的な回答をしている上、「調査対象学年の生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」との質問では全ての学校で「ほぼ毎日」と回答したことから、小学校と同様に中学校におけるICT化の導入が町内全域的に進んでいることが分かる。

さらに、「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」との問いに対して、全ての学校で肯定的な回答をしているが、先述のとおり家庭での学習習慣が備わっていない生徒が多いため、さらなる家庭学習への意識付け必要であると考え。

また、国語・数学の授業に係る質問に対しては全ての学校で肯定的な回答をしているが、理科については肯定的な回答と否定的な回答とで分かれた。国語については、さらなる学力の向上・理解度の定着、数学・理科については苦手意識がある生徒の減少、理解力向上に向けた授業スタイルの構築に向け、今後も継続して取組を行う必要がある。

(3) 総括

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、小学校調査では全道・全国の平均正答率を上回る教科もあり、昨年度に比べ学力向上の兆しは感じることが出来るが、毎日の家庭学習時間に課題がみられる状況であり、今後も継続して改善の取組を行う必要がある。中学校調査では、全ての教科で全道・全国の平均正答率等が下回った上、家庭学習の取組、授業の理解度に課題がみられる状況であることから、生徒自身の意識を向上させる体制が必要と考える。

今後は、これらの調査及び分析結果に基づき、これまでの取組に係る成果を踏まえつつ、保護者や地域などの理解や協力を得ながら改善に向け積極的に取り組むなど、児童生徒の生活改善・意識の醸成を図り、総体的に学力向上へ取り組んでいく必要がある。